

(第2号様式)

宮古特第1743号
令和7年 3月21日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立宮古特別支援学校
校長 濱元 伸
(公印省略)

令和6年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和6年12月11日付け教県第1582号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和6年7月12日	場所	本校視聴覚室	出席 状況	5名出席(全員出席)
第2回	日時	令和6年12月20 日	場所	本校ランチルーム	出席 状況	3名出席(2名欠席)
第3回	日時	令和7年2月29日	場所	本校視聴覚室	出席 状況	4名出席(1名欠席)

2 学校評議員に求めた事項

- ・学校内部からは気がつかない視点からの学校改革への提言を頂きたい。
- ・学校外部の支援者との連携のきっかけ作りや、パイプ役として尽力して欲しい。

3 学校評議員の意見

- ①3年前に立ち上げた「かおりものプロジェクト」、職員・生徒楽しみながら、地域と連携して継続して行っている。授業の中でどのように行うかが課題
- ②地域の小中学校に加えて、高校への特別支援教育のセンター校的役割を期待している。
- ③卒業後の生活介護利用時の認定の申請時期等について保護者に周知を図って欲しい。
- ④障害者の保護者はなかなか外に出れない場合が多いため、保護者の情報を得るのが大変だった。卒業後も学校と保護者との関わりを保てる仕組みがあるとありがたい。
- ⑤綱引きや海神祭のハーリーへの参加など、地域行事に生徒・職員が参加して欲しい。

4 学校運営に反映した事項

- ①かおりものプロジェクトについて、特に織物についての職員研修を行い、授業へ取り入れる方法の検討を進めている。香りについては、月桃水を抽出し、販売するなど授業に取り入れる方法を構築しつつある。
- ②高校の特別支援担当者定期的に意見交換を持つ場を今年度より新たに設定した。
- ③高等部卒業生の進路先について、市役所や福祉機関と連携し、よりよい進路先に繋げることができた。
- ④青年学級の組織づくりを図り、卒業すぐの学年の生徒保護者が中心となって会を運営する仕組みを構築できた。

5 課題その他

上記3⑤「地域行事への参加」ができなかった。学校全体での参加では無く有志の参加なら可能かもしれない。
学校評価アンケート保護者からの回収率が低かった(47%)。次年度新導入する保護者連絡アプリを用いて7割の回収を目指したい。